

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-550	A-55C	13-068 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
The epidemiology of pancreatitis and pancreatic cancer. 膵炎と膵臓癌の疫学		
<b>執筆者</b>		
Yadav D, Lowenfels AB.		
<b>掲載誌</b>		
Gastroenterology. 2013 Jun;144(6):1252-61. doi: 10.1053/j.gastro.2013.01.068. Review.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
膵炎、ガン、疫学		23622135
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 急性膵炎はアメリカ合衆国で入院する胃腸疾患の最も多い原因の一つであり、慢性膵炎は発生率は低いが患者のQOL(生活の質)を著しく低下させる。膵ガンの死亡率は高く、ガンの上位5死亡原因のうちの一つである。膵炎と膵臓癌の頻度、有病率および動向について、年齢と性、人種について関連性を分析する。</p> <p><b>方法：</b> 生活様式(酒、喫煙、食事)や肥満、糖尿病、服薬、血液型、その他の危険因子(胆石、代謝要因、自己免疫疾患、解剖学的異常と管閉塞)と膵疾患(膵ガン、慢性膵炎、遺伝性膵炎、感染症)との関連について検証した。</p> <p><b>結果：</b> 膵臓による障害は年齢と共に増えるが、膵炎のリスクと病因は年齢と性別で異なり、膵臓疾患は黒人の罹患率が高い。肥満は全体の脂肪量やBMIではなく内臓脂肪が膵炎と関係する。胆石症は最も一般的な急性膵炎の原因で、早期の胆嚢切除によってその後の再発の危険性を除くことができる。アルコールは慢性膵炎の最大の危険因子であり、急性膵炎の慢性化は20～30%にみられる。喫煙は急性および慢性膵炎の独立した危険因子であり、飲酒と喫煙が最も一般的な慢性化の原因である。膵ガンの危険因子は喫煙とO型以外の血液型で有意に高い。</p> <p><b>結論：</b> 節酒と禁煙は、膵炎の進行を遅らせ、再発を減らし、禁煙は膵ガンの危険性を減らす最も効果的な対策である。将来の方向性として、膵疾患の遺伝子分析が期待されている。</p>		